

## 2024/07/17 令和6年度 第3回 宿泊税導入検討会

### 議事録

#### ■開催日時

2024/07/17

#### ■場所

那須町役場 会議室

#### ■出席者

- 1 阿久津 千陽（那須町観光協会）
  - 2 片岡 孝夫（那須温泉旅館協同組合）
  - 3 薄井 正明（那須町商工会）
  - 4 三森 康雄（那須町森林組合）
  - 5 伊藤 晴康（那須野農業協同組合理事（那須地区））
  - 6 並木 敬二（那須レジャー施設協会）
  - 7 廣川 琢哉（那須インバウンド協議会）
- ・観光アドバイザー
- 8 山田 桂一郎（観光カリスマ）
- ・オブザーバー
- 9 五艘 みどり（帝京大学経済学部地域経済学部准教授）
  - 10 斎藤 憲彦（那須町財政課長）
  - 11 横塚 誠司（那須町税務課長）
  - 12 増子 政秀（那須町観光商工課長）
- ・事務局
- 13 伊藤 美香（那須町観光協会 事務局長兼 DMO 戦略室長）
  - 14 岩渕 英人（那須町観光協会 戦略企画室次長）
  - 15 栗栖 敦貴（那須町観光協会）
  - 16 藤田 健一（那須町観光商工課 課長補佐兼観光振興係長）

- 17 小船 純一（那須町観光商工課 観光振興係主査）
- 18 櫻井 有希恵（株式会社リクルート地域創造部グループマネージャー）
- 19 菅野 美奈（株式会社リクルート地域創造部グループエリアプロデューサー）

#### ■会議資料

- ・ 令和6年度 第3回宿泊税検討委員会次第
- ・ 那須町宿泊税導入検討委員会 名簿
- ・ 要望書（案）
- ・ 請願書（請願書）
- ・ 宿泊税導入検討資料
- ・ 宿泊税導入について

#### ■議事録

##### 1 開会

##### 2 観光協会長挨拶

##### 3 議事

###### （1）宿泊税導入に関する要望等について

###### ①宿泊税導入の背景と用途案

資料：「宿泊税導入について」を参照。

- ・ 観光客に選ばれる観光地にするために観光税を徴収し、観光客に満足していただける観光地域づくりをしていきたい。用途として、那須塩原駅から那須町へのアクセス向上として、例えばシャトルバスを友愛の森まで周遊させるなど。廃屋についても資金がないと撤去できないため、段階を踏みながら色々と実施していきたい。
- ・ 徴収していただいた事業者へは手数料をバックしてロイヤルカスタマー獲得のために活用いただきたい。
- ・ 何かコロナや災害等が発生した際に、基金として、資金を積み立てていくことも考えている。倶知安町でもそういった利用をしている。
- ・ 年間最低でも2億円を目標に資金を集めたい。DMOで試算した結果、定率2%が望ましいと考えている。定額が良いという声も出たが、事業者によって不公平という声もあり定率を検討している。計算基準額としてはルームチャージとする。ルームチャージが明示されていない場合は、喫食有無によって何割を負担とするかも併せて明示する。
- ・ 実施したアンケートでは44事業者の方に回答いただき、賛成が反対を上回る結果と

なった。(伊藤美香)

- ・ 補足として、素泊まりの料金を明記できる宿については、明記いただいた金額を基準として宿泊税を徴収し、明記できない施設については観光協会(要望後に町が)が定める割合でお願いしたい。(阿久津千陽)

## ②要望書(案)

資料:「要望書(案)」を参照。(岩淵英人)

## ③請願書(案)

資料:「請願書(案)」を参照。(岩淵英人)

## ○意見交換

- ・ 今日初めて事業者説明会に参加したところ、質疑応答について個人的なご意見も多いものの、きちんと答えられていないのではないかと感じている。皆さん反対はしていないものの、答えられていない状況は議員の耳に入るのでは。もう一度くらい説明会をしないと、11名ほどいる「賛成か反対かどちらともいえない」という方々が悩まれてしまうのではないかと感じている。(阿久津千陽)
- ・ 落としてどころとしてもう一度されるのが良いのでは(並木敬二)
- ・ ご意見を下さる一部の方に対して、何度やっても同じ結果になってしまうので、その一部の方に対してのもう1度説明会を行う必要はないかと感じている。(阿久津千陽)
- ・ また、声の大きい方の意見には振り回されないようにしたい。本日のご意見も、第1回目にいただいたご意見と同じだったので、議論ができるか?という観点で堂々巡りにならないようにしていきたい。(伊藤美香)
- ・ アンケートの対象者は何件か。(廣川琢哉)
- ・ 600件。回答がない事業者については「どちらでもよい」と解釈する。(伊藤美香)
- ・ (事業者説明会で)客観的に答えていない質問もあるように見えた。(並木敬二)
- ・ 宿泊税のシミュレーション等きちんと答えられない部分があったのは申し訳なかった。(阿久津千陽)
- ・ 今回に関してはデータとしてきちんととれる楽天・じゃらんのデータを利用してお示しした。(伊藤美香)
- ・ まずは議論を前に進めていただきたい。(薄井正明)
- ・ P24に記載いただいている部分に、より精緻な計算をするのが良いのでは。旅館だけではなく、民泊とグランピング、キャンプ場に泊まっている数字を9月まで、見えている範囲だけでももう少し集められたほうが良いのでは。旅館組合の中で合意をとるうえで

もこの数字が欲しい。(片岡孝夫)

- ・ 一番避けたいのは、2億徴収できると思っていたものが1億しか徴収できないこと。そのうえで、見えている数字だけで換算して、最低でも2億だと考えられる方が良いのでは。より近い数字にできるとしたらJTBの予約実績も入れるなど。(伊藤美香)
- ・ 実際の数字と試算と大きくずれるので旅館組合内でどのように話したらいいかまだ考えている。JTBを入れても精緻にはならなそう。(片岡孝夫)
- ・ 基金についてはどう考えているか。(片岡孝夫)
- ・ 今ある基金との目的の違いを明確にすることが大事。(横塚誠司)
- ・ アンケート無回答の事業者の温度感についてはどうか。(横塚誠司)
- ・ キャンプ場等については分からないが、旅館等は否定派が多い印象。チェーン系施設は全国で展開していることもあり肯定派が多い。いずれにしても町全体としてより良い町にしたいという想いは同じ。(伊藤美香)
- ・ 一泊二食のルームチャージについての考え方はどうなっているのか。(横塚誠司)
- ・ じゃらん宿泊旅行調査の割合と、那須町のヒアリング、倶知安町のヒアリングから設定している。(伊藤美香)
- ・ 税については事業者から質問を受けることも多いので、明確な根拠として事業者に提示できるデータが欲しい。(横塚誠司)
- ・ それが欲しくてアンケートも実施したものの、回答者にペンション・民宿が多かったため、宿泊単価等の数字に偏りがある。(伊藤美香)
- ・ 観光税についてはどう考えているか。(横塚誠司)
- ・ 宿泊税をとったその先の話として検討している。(阿久津千陽)
- ・ 入湯税についてはどんな意見が事業者説明会であったか。(横塚誠司)
- ・ 徴収額を上げたほうが良いのでは、また使い道をどうするかといった意見。(阿久津千陽)
- ・ 過去に入湯税についての議論はしており、すでに検討が終了している。いまだに議題に挙げている方がいる。(片岡孝夫)
- ・ 行政が言うならわかるけど、DMOが意見することに関して異議申し立てされる方も多い。(伊藤美香)
- ・ 事務的な話であるが、請願書と嘆願書は意味合いが異なるので、どちらにするのかは改めて検討された方が良いのではないかと。請願書ではなく陳情の方がいいのでは。請願書

の方が重要度が重いので、議員が制度説明する義務があり、質疑応答も答える必要がある。陳情であれば質疑は観光協会長が答えて説明ができる。(斎藤憲彦)

- ・ 齊藤議員と改めて検討して、陳情にしたい。(阿久津千陽)
- ・ 宿泊税上限について再度 1000 円と設定した背景をお聞きしたい。(増子政秀)
- ・ 価格の高い宿泊施設は数としては少ないので、その施設だけを追いかけることはそこまで全体影響がない。また、全国で導入している上限が 1000 円なので足並みをそろえられる。(片岡孝夫)
- ・ 事業者へキックバックする手数料の上限を設けない理由はなぜか。他自治体では設けているが、そこは他自治体に倣わないのか。(増子政秀)
- ・ キックバックの手数料の上限を設けてしまうと、事業者の徴収意欲が下がってしまうと考えている。ここについては他市町村にならう必要はないのでは。事業者が稼ぐ仕組みにできたほうが、結果として税収が上がるのではと考えている。(阿久津千陽)
- ・ 那須町で今回宿泊税の導入が決定したら、民間の起案で宿泊税が導入される初の自治体になる。そのため、導入経緯が行政と連携をしながら民間主体で上がったものとする、上限を設けないことにも理由が示しやすいのではないか。(片岡孝夫)
- ・ そうすると、今後視察も増えて、視察ビジネスのモデルも期待できる。(伊藤美香)
- ・ 要望書の段階なので、そのまま受け入れてもらえるとは思っていないが、こういった意思があることは今後の世代にも引き継いでいきたい。(阿久津千陽)
- ・ 導入時期はいつ頃を検討しているか。(斎藤憲彦)
- ・ 導入時期について、9月議会に要望書と請願書または陳情書を上げることが希望。その後受け入れられれば条例整備と、パブリックコメントを経て、12月の議会提出が希望。実際は3月議会になると思われる。(阿久津千陽)
- ・ 今後の運営方法についてはどうするのがよいか。条例の記載や制度設計はどう進めていくのか。(片岡孝夫)
- ・ 今の委員で構成されている観光戦略会議で運用していく。(増子政秀)
- ・ 町で考えたものは、検討委員会のメンバーにも共有する。(斎藤憲彦)
- ・ 入湯税の時も大変だったが、実際に宿泊税が導入されたときに実際に動くのは税務課になる。入湯税は皆さんからは見えにくいものになってしまっているので、宿泊税は見えるものにしていただきたい。(伊藤晴康)
- ・ 課税免除対象として、子どものほかに障害者の方はどうなるか。(伊藤晴康)

- ・ 見える部分は8割は完全に誰でも見えるように公表すべきという意見もいただき、そうしていく予定。より納得していただけたらと思っている。課税免除対象に障害者を含めるかについては引き続き検討していきたい。(阿久津千陽)
- ・ 陳情については議員を含め検討し、請願書かどちらかの形で提出する。こちらは観光協会で検討する。要望書は現在の内容で提出するとし、9月議会に提出できるスケジュールを進める。こちらの方向性で協議を終了とさせていただく。(阿久津千陽)  
※最終的に検討委員会で要望書提出に同意

#### 4 有識者アドバイス

##### ○五艘みどり氏 (帝京大学経済学部地域経済学部准教授)

- ・ 色々な意見がある中で、そのプロセスを経て決まっていくことが大事。
- ・ そのうえで宿泊税というのが主流になっていけば良いと考える。
- ・ 実際に徴収を開始したあとが、手間に関するご意見が再度出てくる可能性が高いので、その時に那須町の観光戦略を語れることが重要。現在ビジョンはあるがその柱があいまいな部分もあるので、可視化して宿泊税の用途を説明できるものがある方が良く考える。

##### ○山田 桂一郎 (観光カリスマ)

- ・ 事業者説明会でいただいた事業者からの意見が論理だっていないので、解決できないことがもどかしい。
- ・ 議論を組み立てる中で前向きに進めていただきたい。
- ・ 本日の議論で、町づくりの話をした理由としては、静観している事業者を含めて住民の方でも静観する方が多いはず。今後パブリックコメントも実施するうえで住民にもどういったメリットがあるのかという説明が抜けてしまうと、最終的な賛同が得られないので、注意したほうが良い。
- ・ 基金について、安定的なマネジメントをする上では運用面を考えることが重要。気仙沼でも視察ビジネスにつながっているので、どうしていくか検討いただくのが良い。
- ・ 上限については、徴収面も、キックバックも、どちらもいらぬのでは。もし徴収面で上限を設定するなら1000円ではなく10万円でもよいかと思う。1000円上限というのはお客様視点では違和感が残る。遠くない未来に、1泊2日ではなく、1週間宿泊する方も生まれてくることを考えると上限はいらぬと考える。  
→今の那須町の現状を踏まえるとメディア等で足元をすくわれぬようにしたい (片岡孝夫)
- ・ 伊勢志摩でも民間起案で初の宿泊税を検討しているので、那須は取られないようにし

ていただきたい。

→見直しのタイミングでもいい。(増子政秀)

- ・ それであれば見直しのタイミングで上限を設ける方が良く、メディアの意見にも踊らされずに、払うお客様から見た視点を大事にしてほしい。気仙沼の市町が先週のヤフーニュースで、宿泊事業者ではなく払うお客様に意見を聞くことが大事と言っているので、ぜひ見てほしい。
- ・ キックバックは上限を設けず、5%ほどに設定するのが良いのでは。

## 5 閉会

以上